

1 調査の概要

(1) 調査の目的

家族の介護、その他の日常生活上の世話を、過度に行っていると認められる子ども・若者（ヤングケアラー）の状況を個別に把握し、具体的支援を検討する。

(2) 調査の対象

市内公立小学校5年生から6年生 2, 564人

市内公立中学校1年生から3年生 3, 396人

計5, 960人（令和7年5月1日現在）

(3) 調査の方法

任意・記名式のアンケート調査。児童本人がタブレット端末等で回答。

各小中学校を通じて、児童宛に調査依頼文、保護者宛に調査実施案内を配布。

(4) 調査期間

令和7年11月4日（火）から12月31日（水）

(5) 回答状況（小数点以下、四捨五入）

- ・小学校5年生 対象：1, 335人 有効回答：117人 回答率： 8. 63%
- ・小学校6年生 対象：1, 229人 有効回答：179人 回答率：14. 56%
- ・中学校1年生 対象：1, 116人 有効回答： 48人 回答率： 4. 30%
- ・中学校2年生 対象：1, 092人 有効回答： 59人 回答率： 5. 40%
- ・中学校3年生 対象：1, 138人 有効回答：105人 回答率： 9. 23%

- ・合計 対象：5, 960人 有効回答：508人 回答率： 8. 52%

2 調査結果

Q1:あなたの学校を教えてください。Q2:あなたの学年を教えてください。

●小学校

学校名	5年生	6年生	不明	合計
朝霞第一小学校	9	14	5	28
朝霞第二小学校	12	13	1	26
朝霞第三小学校	35	28	0	63
朝霞第四小学校	3	1	0	4
朝霞第五小学校	9	29	0	38
朝霞第六小学校	3	15	0	18
朝霞第七小学校	14	35	0	49
朝霞第八小学校	22	35	0	57
朝霞第九小学校	6	1	0	7

朝霞第十小学校	4	8	0	12
合計	117	179	6	302

※不明は、学年を中学生と選択している児童。

●中学校

学校名	1年生	2年生	3年生	不明	合計
朝霞第一中学校	18	19	40	1	78
朝霞第二中学校	9	7	31	0	47
朝霞第三中学校	2	2	11	0	15
朝霞第四中学校	11	13	0	1	25
朝霞第五中学校	8	18	23	1	50
合計	48	59	105	3	215

※不明は、学年を小学生と選択している児童。

Q3:上の絵を見て、あなた自身について、あてはまる番号を教えてください。

(1) 障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている。	11
(2) 家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている。	10
(3) 障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている。	3
(4) 目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている。	3
(5) 日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている。	2
(6) 家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている。	1
(7) アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している。	1
(8) がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている。	0
(9) 障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている。	3
(10) 障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている。	1
当てはまるものはない	490
合計	525

Q4:Q3で選択した番号について、具体的に教えてください。

- ・お母さんやお父さんのお手伝いをしている
- ・親などが風邪になった時に食べ物を作ったり、気を配ったりする。
- ・仕事で忙しい親の代わりに、家事をやっている
- ・買い物している時に一緒にいる。
- ・たくさんの人たちに支えられているのが多い
- ・お母さんが病気で動けない時があるから家事を手伝っている。
- ・手伝いをしている
- ・お母さんの帰りが遅かったりお姉ちゃんが家にいない時などに家事全般しています。
- ・毎日、お父さんやお母さんに代わって洗濯物を取り込んだり、お風呂を洗ったりまたたまに食器を洗ったりしている。

- ・お父さんが視覚障害者なので誘導などや代わりに言葉で説明したり、書くことを手伝っている。
- ・毎日やってるわけでもないのでもそこまで気にしてない。やりたくて手伝ってるので大丈夫
- ・家族がうまく日本語を話せていない際に自分が代わりに話している
- ・まだまだ危なっかしい時がたまにある妹の面倒を見ている。
- ・弟と一緒に遊んであげている。
- ・お母さんが日本語が話せなくて・わからなくて困ってる時は私が通訳している。
- ・親ががご飯の準備ができないときに少しはやっている
- ・毎日、お手伝いや、掃除をしているから
- ・親がたまに遅く帰ってくるので弟を少し世話している。
- ・家の家事の手伝いをしている
- ・お母さんたちがいない時に、妹や弟達の面倒を見ている。
- ・親が忙しいときに手伝いをしてる
- ・親が忙しいときに弟の世話をしている
- ・妹のぶんまでやることが多いから習い事や学校でよくおくれる(遅刻)することが多い。
- ・兄弟の着替えをさせている

Q5:Q3Q4で教えてくれたことについて、相談できる人はいますか？

(1) 相談できる人がいる	70
(2) 相談できる人はいない	14

Q6 : Q3Q4で教えてくれたことを大人に相談したいですか？

(1) 相談したい	23
(2) 相談したくない	52

Q7 : Q6で「(1) 相談したい」と教えてくれた方、よろしければお名前を教えてください。

※回答者5名（個人情報のため、報告書への記載はなし。個別対応を実施。）

3 考察、今後の支援の方向性

(1) 考察

①お世話をしている状況について

・多くの児童は、「当てはまるものはない」を選択していることから、過度なケアを担っていないと推測される。

・また、具体的な内容の記載から見ても、お手伝いの範囲が多いものと推測されるが、日常化していることによる児童の捉え方には、留意する必要がある。

・一方で、「毎日」と記載があったり、選択肢(6)「家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている。」や選択肢(7)「アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している。」を選択している児童がいることから、過度なケアを担う児童が存在している可能性は否定できない。

②相談者の有無、ニーズについて

- ・多くの児童は、相談者を確保できているが、相談者がいないと回答した児童も一定数いることが明らかになった。

- ・相談ニーズについては、「相談したい」よりも「相談したくない」が大きく上回る結果となった。家庭のことを知られたくない等、相談に対するハードルが高い可能性が考えられる。

③アンケート調査の在り方について

- ・今回の有効回答率は、1割を下回る結果となった。任意・記名式にしたことによる難しさが影響したものと推測される。

- ・簡素化し、わかりやすい内容を意識したが、選択に誤りがあったり、整合性がとれない回答が確認された。ヤングケアラーの内容自体、難しい内容であるため、調査の手法についても再考が必要と考える。

(2) 今後の支援の方向性

①適切な把握と相談体制の整備

児童に接する機会の多い支援者が、身近な相談者として見守りや声かけを行い、支援が必要な児童や声をあげられない児童を、早期に把握していくことが大切です。

また、直接言葉にすることに、難しさを感じる児童もいることが想定されるため、タブレット等を活用した、相談ツール等の導入も必要になると考えます。

②関係機関と連携した支援

ヤングケアラーに気づき、寄り添い、話を聞くなど「身近な支援者ができること」、サービスの導入など「行政ができること」子ども食堂など「地域でできること」を整理し、それぞれが連携し、児童のみならず、該当世帯全体を支えて行くことが大切です。